

第75回北海道高等学校柔道競技大会
旭川支部予選会 要項

1. 主 催 北海道高等学校体育連盟旭川支部・旭川柔道連盟
2. 主 管 北海道高等学校体育連盟旭川支部柔道専門部
3. 当 番 校 旭川龍谷高等学校
4. 期 日 2025年5月15日(木)～5月16日(金)
5月15日(木) 開 場 (8:00)
設 営 (8:00～)
公式 練習 (9:00～10:20)
計 量 (9:10～9:30)
審 判 会 議 (9:45～)
監督主将会議(審判会議終了次第～10:15まで)
開 会 式 (10:30～)
競 技 開 始 (11:00～)
団 体 戦
5月16日(金) 開 場 (9:00～)
審判打ち合せ(10:00～)
競 技 開 始 (10:45～)
男 女 個 人 戦
閉 会 式 (個人戦終了後)

5. 会 場 東光スポーツ公園 武道館
[旭川市東光24条7丁目 TEL (0166-31-3510)]

6. 参 加 資 格

- (1) 北海道高等学校体育連盟加盟校の在学生徒。(2025年4月以降)
(2) 選手は、2006年4月2日以降に生まれたものとする。ただし、出場は同一競技3回までとし、同一学年での出場は1回限りとする。
(3) 転校後6ヶ月未満の者は参加を認めない。(外国人留学生もこれに準ずる)但し一家転住等やむを得ない場合は、支部長の許可があればこの限りでない。
(4) 出場する選手は、あらかじめ健康診断を受け当該校の校長が支障なしと判断した者。
(5) 2025年度(財)全日本柔道連盟に登録を完了した者。
(6) 女子については、試合経験があり力量のある者とする。
(7) 高体連主催大会参加者災害補償制度に加入した者、または加入の意志のある者。
(8) 脳震盪対応について(選手および指導者は下記事項を厳守すること)
① 大会一ヶ月以内に脳震盪を受傷した者は、脳神経外科の診察を受け、出場許可を得ること。
② 大会中、脳震盪を受傷した者は、継続して当該大会に出場することは不可とする。なお、至急、専門医(脳神経外科)の精査を受けること。
③ 練習再開に際しては、脳神経外科の診断を受け、許可を得ること。
④ 当該選手の指導者は大会事務局および全柔連に対し、書面により事故報告書を提出すること。
(9) 新型コロナウイルス対応について
別紙「全国高等学校柔道選手権旭川支部大会 新型コロナウイルス感染防止ガイドライン」を参照

7. チーム編成 男子団体戦正選手5名、補欠1名、マネージャー1名、監督1名の計8名とする。
女子団体戦正選手3名、補欠1名、マネージャー1名、監督1名の計6名とする。
個人戦(男子)特に参加人数を制限はしない。

60kg級 66kg級 73kg級 81kg級
90kg級 100kg級 100kg超級

個人戦（女子）特に参加人数の制限はしない。

4 8 kg 級 5 2 kg 級 5 7 kg 級 6 3 kg 級
7 0 kg 級 7 8 kg 級 7 8 kg 超級

8. 競 技 規 則

- (1) 試合は国際柔道連盟試合審判規定（IJF 2025 新ルール 高体連ルール）による。
- (2) 優勢勝ちの判定基準
 - ア. 団体試合は、「技あり」「有効」または「僅差」（指導差2）とする。
 - イ. チームの内容が同等の場合は代表選手を任意に選出して代表戦を行う。代表戦で得点差が場合は、延長戦（ゴールデンスコア）により勝敗を決する。
 - ウ. 個人試合は「技あり」「有効」または「僅差」（指導差2）とする。技による評価が同等の場合は、延長戦（ゴールデンスコア）により勝敗を決する。
 - エ. 締め技及び関節技においては、その効果が認められたときは審判員の見込みによって「一本」の判定を下すことが出来る。
- (3) 個人試合について
 - ① 判定基準
 - (ア) 選手対選手それぞれの試合の勝敗は「技あり」「有効」または「僅差」（指導差2）とする。
 - (イ) 「僅差以上」は指導差2とする。
 - ② 延長戦
 - (ア) 指導差もない（0－0）、あるいは指導差1（2－1または1－0）の場合は延長戦を行う。
 - (イ) 延長戦に入った場合、「有効」以上もしくは指導差がでた時点で勝敗を決する。
- (4) 団体試合について
 - ① 判定基準
 - (ア) 選手対選手それぞれの試合の勝敗は「技あり」「有効」または「僅差」（指導差2）とする。
 - (イ) 「僅差以上」は指導差2とする。
 - ② 「技の内容」と「指導」の重み
 - (ア) 【一本勝＝反則勝 > 技あり > 有効 > 僅差】の順とする。
 - ③ 団体試合のチーム対チームの勝敗の決定（以下の項目に従って勝敗を決定する。）
 - (ア) 勝ち数の多いチームを勝ちとする。
 - (イ) (ア)で同等の場合は「一本」による勝ちが多いチームを勝ちとする。
※ただし、一本勝ちと反則勝ちとは同等とする。
 - (ウ) (イ)で同等の場合は「技あり」による勝ちが多いチームを勝ちとする。
 - (エ) (ウ)で同等の場合は「有効」による勝ちが多いチームを勝ちとする。
 - (オ) (エ)で同等の場合は代表戦を行う。
※ 代表戦はその対戦に出場した選手の中から任意に選出して行う。
※ 代表戦における優勢勝ちの判定基準は「技あり」または「僅差」以上とする。ただし勝敗が決しない場合は、延長戦（ゴールデンスコア）を時間無制限で行う。
※ 延長戦の判定基準・実施方法は個人試合に準ずる。

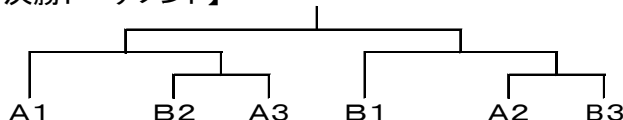
9. 競 技 方 法

- (1) 団体試合（男子5人制・女子3人制、ともに総当たりの勝ち点方式）

【男子団体】

- ア 男子団体戦は昨秋の新人戦上位4チームをシードする。
- イ 参加チームが5チーム以内の場合は1リーグ戦とする。6チーム以上の場合は、予選2ブロックリーグ戦により下記決勝トーナメント進出3校を決める。

【決勝トーナメント】



- ウ チーム間の勝敗決定は、勝率高点法による。
- エ 同内容の時は、代表戦を1回行い必ず勝敗を決する。
- オ 時間は、予選リーグ戦は3分、決勝トーナメント戦は3分とする。

【女子団体】

- ア 女子団体戦は参加チームによるリーグ戦で行う。
- イ 三人制（先鋒、中堅、大将）の総当り方式とする。なお、試合は各チーム2名以上で行い、試合毎のオーダー変更を認めない
- ウ 試合時間は3分とする。

※ 判定基準：選手対選手それぞれの試合の勝敗は、「技あり」「有効」または「僅差」（指導差2）とする。

※ 「技の内容」と「指導」の重み

【一本勝ち＝反則勝ち＞技あり＞有効＞僅差】

※ 代表戦は、その対戦に出場した選手の中から任意に選出して行い。

※ 代表戦の判定基準、実施方法は個人試合に準ずる。

(2) 個人試合（男子・女子）

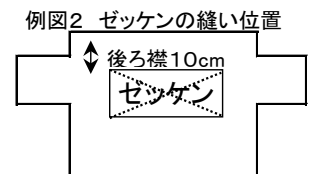
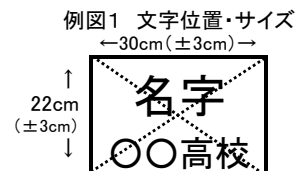
- ア 男子・女子ともにトーナメント法により行う。
- イ 試合時間は、男子は3分とする。ただし、準決勝及び決勝は3分とする。女子はすべて3分とする。

10. ゼッケンについて

参加選手はゼッケン（名字、所属校名入り）を柔道着に取り付けること。

ゼッケンを取り付けていない選手は、出場できない。

布 地	白色（晒、太綾）
サ イ ズ	横30cm±3cm × 縦22cm±3cm
文 字 位	名字は上側3分の2、所属（校）名は下側3分の1
書 体	太いゴシック（楷書）、男子は黒、女子は赤
縫 い 位	後ろ襟から10cm、対角線にも強く縫い付ける



11. 申 込 方 法

(1) 別紙様式により申し込むこと。

合わせて、旭川龍谷高等学校ホームページ内「第75回北海道高等学校柔道大会旭川支部予選会申込み」のページより「参加申込書(個人・団体)」（ワードファイル）をダウンロードし、必要事項を記入して下記事務局宮崎宛にメール送信して下さい(詳しくは別紙「第75回北海道高等学校柔道大会旭川支部予選会 参加申込みについて」を参照して下さい)。

ファイルをメールで送信する場合にタイトルを「学校名 申し込み」としてください。

例) 旭川龍谷 申し込み

参加料（選手1名につき300円。ただし、高等専門学校生徒は1名につき400円）と全国高体連柔道負担金（1名につき500円を徴収）の合計800円（高等専門学校生徒は1名につき900円）を5月8日（木）顧問会議（抽選会）当日にご持参下さい。

(2) 2025年5月1日（木）16:00 **必着**

〒078-8340 旭川市東旭川町共栄15-2

旭川龍谷高等学校 柔道大会事務局 宮崎 優斗 宛

E-mail y-miyazaki@g.ryukoku.ed.jp

Tel 0166-39-2700 （用紙は郵送，データはメールにより提出。電話・FAXによる申込は不可。）

12. 全 道 大 会

全道大会への出場は、個人は各階級6名（ただし100kg級、100kg超級は4名）、女子は各階級とも選考された者とする。男子団体戦は3校とする。

13. 顧 問 会 議

2025年5月8日（木）午後1時30分～ 旭川龍谷高等学校 会議室（校舎2階）

（抽 選 会）

14. そ の 他

- (1) 申し込み後、出場者に変更を生じた場合は、当該高等学校長の証明書を添えて、5月15日（木）の監督主

将会議までに届けること。

- (2) 試合用の紅白の帯は各校で用意すること。
- (3) 参加校には道高体連研究調査誌（1冊 1,000円）を配布しますので代金をご持参下さい。

15. 引率・監督

- (1) 引率責任者は、各学校の認める当該校の職員とする。監督は校長の認める当該校の職員または指導者とする。監督については、校長から委嘱された「部活動指導員」（学校教育法施行規則第78条の2に記された者）も可とする。
- (2) 監督の役割
監督は、自身の選手が大会会場に入場してから退出するまでの間、選手の行動に責任を持たなければならない。
- (3) 監督の行為・言動
 - ① 試合が止まっている間（「待て」から「始め」）のみ、選手に対し、指示を与えることができる。
 - ② 次の行為を禁止する。
 - ア．試合が続行している最中に指示を出すことや試合中に立ち上がること。
 - イ．対戦相手や自身の選手を侮辱する言動。

16. 諸連絡

- (1) 試合用の紅白の帯は、各校で用意すること。
- (2) 今年度の補助生徒の派遣依頼はしない。
- (3) 競技中の傷害・疾病などの応急処置は主催者が行うが、その後の責任は負わない。
- (4) 選手は、必ず当該校引率責任者に引率され、引率責任者は選手のすべての行動に対して責任を負うものとする。
- (5) 宿泊は、各学校で手配すること。

17. 団体試合のオーダー用紙提出と選手変更届の提出

- (1) 「団体試合オーダー用紙及び選手変更届」（参加申込後に変更が生じた場合）は、所定の様式（当該学校長の出場認知書）により、**5月15日(木)の受付時(8:00~9:00)**の間に提出する。用紙は封筒に入れること。
- (2) 提出されたオーダー用紙・選手変更届は、全てが揃い次第開封する。
- (3) 団体試合のオーダー用紙提出後は、配列の変更は認めない。
- (4) 参加申込後の選手変更は男女ともに1名を限度とする。さらに**選手変更新たに登録した選手は必ず補欠に入れること。**
- (5) 競技開始後に選手変更の必要が生じた場合には、「選手変更用紙」に必要事項を記入し、大会本部に2部提出する。本部からの承認を得てから選手変更を行うこと。